

<地域同窓会だより>

愛知地区同窓会 平成30年度総会報告

幹事 西 治久（土木46年卒）

平成30年7月8日、愛知地区同窓会の総会を開催しました。会場は、3年続けてノリタケの森にある「レストラン キルン」（フランス料理）です。今年は、平成30年7月豪雨の最中での開催となり、前日までの悪天候で開催を危惧していましたが、災害対応で2、3人の欠席はあったものの今年の23人を超え24人の参加があり、過去5年間で最多となりました。また今年は、北陸地区同窓会代表の櫻井卓一さんを招待し、交流を楽しみにしていたのですが、雨の影響でJRが不通となり、出席ができませんでした。大変残念でしたが、また次の機会にと思っています。

さて当日最初の行事は、淑徳大学准教授の政倉祐子さん（感性H12）に「大学教育の今と昔」と題して講演をしていただきました。学生のころから大学准教授の今までを時代ごとに比較し、時代の流れで考え方や見方が変化してきていることをわかりやすく説明され、問題提起をされました。参加者も皆、自



分が生きてきた時代を思い起こしながら聴き入りました。結果よりも過程が大切な時代となっていると教わりました。

総会では活動報告、会計報告に続き、本部総会の報告があり、北陸地区同窓会との交流についての話を行いました。懇親会は、阿部正毅さん（電気38）の乾杯で幕を開けました。

食事をしながら自己紹介をし、楽しいひと時を過ごしました。

毎年、参加メンバーにも変化があり、少しずつですが広まっていることをうれしく感じました。最後は、来年の再会を祈念して、畑島 貢さん（土木40）による一本締めで閉会しました。



機械系関西地区同窓会 第16回総会報告

副代表 波多 幸夫（機械40年卒）

平成30年9月8日、大阪市北区梅田に立地する「バンダリア」にて、第16回総会を開催しました。関西地区では、関西本部総会を隔年で開催しているため当会の総会は2年ぶりの開催です。当日はご来賓として、常盤工業会本部から藤井輝夫会長、山口大学工学部から望月信介副学部長をお迎えしました。会員153名に案内状を送付したところ76名から回答があり、当日の出席者数は来賓を含めて20名でした。望月副学部長のお力添えで平成の卒業生が前回の3名から7名に増え、出席者はかなり若返りました。会場は4人がけテーブルのビュッフェスタイル料理で、総会は終始和やかに進行しました。

冒頭の橋本代表による挨拶では、日頃の活動に対する御礼、任期満了に伴う次期代議員選挙立候補者の選出、高齢化に伴う幹事の後継者選出への協力依頼が述べられました。次に事務局の高村幹事から2年間の活動報告がありました。代議員立候補者選出と幹事選出の主旨説明では、伝統ある機械系関西地区同窓会の火を消してはならないと危機感が強く訴えられました。幹事の選出については活動

内容が見える化しつつ進めるべきとの意見が多く、乗富和夫氏（機械38）と太田善博氏（機械47）が現幹事に加わることになりました。続いて、会計監査報告が行われ、議事は異議なく承認されました。

望月副学部長には大学の最近の状況についてお話をいただきました。研究・教育内容の変化、ものづくりにおけるコンピュータ技術の進歩、男子学生と女子学生と外国人留学生の人生観の違い等々、歴史的背景を交えて昔と今をおもしろおかしくお話しいただきました。

記念撮影後の懇親会では藤井会長からご挨拶をいただきました。同窓会は人間関係を広げて成長に繋がるものであること、若い人の参加を増やし同窓会活動を活発化してほしいことを激励とともに述べられました。

懇親会は時間いっぱいテーブルスピーチで盛り上がり、話し足りないところは二次会に引き継がれ、総会は終了しました。



帰省先に会誌が届いている卒業生のご家族の皆様方へ

会誌を直接ご本人にお届けして読んでいただきたいと思っております。また現住所所在地にある地域同窓会活動にも参加していただきたいと思っておりますので、ご子息、ご息女の現住所をご一報いただきますようお願い申し上げます。

土木建設系関西地区同窓会 平成30年度総会報告

野畑 正明 (土木54年卒)

9月8日(土) 13時より、大阪西梅田の「バンダリア」にて平成30年度土木建設系関西地区同窓会総会を開催しました。当日は来賓として麻生稔彦教授(社会建設工学科教授、社会基盤マネジメント教育研究センター長(初代))をお迎えし、総勢25名の皆さんにご出席いただきました。

総会の開催にあたっては会員への個別案内のほか常盤工業会ホームページ、麻生研究室のLINEでも周知を行っていただきました。会員299名に案内状を送付しましたが、依然として案内不達も多く、会員の連絡先把握と返信率が低いことには苦慮しています。そのような中、昨年に引き続き今年も兵庫県庁から5名の現職の皆さんに出席していただきました。そのほかにも60歳未満の現役会員4名の方が出席され、わずかながら総会の若返りに光明が見えてきたように思います。また、本総会において、新たに10名の方に年次幹事を引き受けていただくことができ、総会全体の出席率アップ、同窓会の活性化にご尽力いただけることになりました。

総会では、笹倉雅人会長の開会挨拶に続き、次期役員・幹事の選出を行い、平成29年度活動報告を行いました。また小金 健会計幹事より平成29年度会計報告を行い、いずれも全会一致で承認されました。

総会議事終了後、来賓の麻生稔彦先生から、「メンテナンスエキスパート山口(ME山口)育成の取り組み」と題して、講演をいただきました。講演概要は以下のとおりです。

(1) インフラ老朽化の加速的進行、維持管理に係る財源・人材不足という社会的背景を受け、「地元のインフラは地元で守る」という取組として、産官学が協働してインフラ再生技術者を育成するME山口養成講座を平成26年から開催しており、修了認定者は66名となっている。修了者の業種内訳は建設業9名、コンサル28名、市職員20名、県職員9名。

(2) 橋梁及びトンネルの維持管理を主とし、産官学を通じての社会要請の収集、修了認定、地域ニーズを反映した技術者教育の方向付けを行っている。

(3) 養成講座は座学と実習からなり1コマ90分、全28コマを受講し、修了試験に合格しなければならない。また、5年毎の更新講習受講とレポート提出が必要。本資格は、平成29年に公共工事の国土交通省技術者資格登録簿に登録された。

(4) この活動をベースとして、平成29年11月に工学部附属社会基盤マネジメント教育研究センターを設立、発足した。

講演終了後は活発な質疑応答があり、予定時刻を超過したほどでした。その後、麻生先生を囲んで出席者全員で記念撮影を行い、懇親会に移りました。懇親会では、隣室で開催中の機械系同窓会総会に来賓として出席されていた藤井会長にご無理を言い、急遽ご挨拶をいただきました。

最後に、小倉 通氏(土木48年)の絶妙な中締め挨拶で、再会を約して閉会しました。

